# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

2001-210141

(43)Date of publication of application: 03.08.2001

(51)Int.CI.

3/00 HO1B CO3C 4/04 C03C 8/22 7/004 G03F HO1B 3/08 HO5K 3/46

(21)Application number: 2000-021905

(71)Applicant:

**MURATA MFG CO LTD** 

(22)Date of filing:

31.01.2000

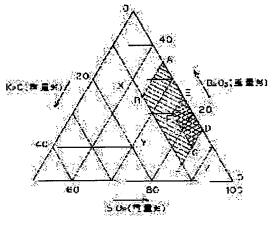
(72)Inventor:

**INAMI MICHIAKI** 

# (54) METHOD OF MANUFACTURING PHOTOSENSITIVE GLASS PLATE AND MULTILAYER WIRING CIRCUIT BOARD USING IT

paste which can suppress shrinks in sintering, dispersion of conductor components including Ag, and gelation, and can surely forming, for example, a glass layer with via holes having predetermined precise shape and dimensions disposed at the predetermined positions and a multiplayer wiring circuit board using this paste. SOLUTION: As a glass component to constitute the principal part of the inorganic composition of a photosensitive glass paste, a mixture of glass components of low and high melting points is employed, and the mixing ratio of is made larger for the glass components of high melting point (70 to 99% by weight) and smaller for the low melting point glass (1 to 30% by weight). For the high melting point glass, a borate silicate glass is used which can suppress dispersion of conductive component including Ag. The ratio of the inorganic component in the photosensitive glass component is made between 40 to 70% by weight.

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a method of manufacturing photosensitive glass



## **LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

16.01.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

	• • • •

(16) 日本国特許庁(JP)

# (12)公開特許公報(A)

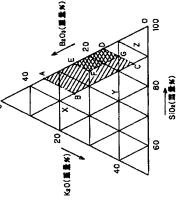
(11)特許出顧公開番号

テーマコート (参考) 3/00 A 2H025 4/04 4G062 8/22 5E346	7/004 501 50303 3/08 A A (全10頁) 最終頁に続く	株式会社村田製作所 京都府長岡京市天神二丁目26番10号 伊波 通明 京都府長岡京市天神二丁目26番10号 株式 会社村田製作所内 100092071 弁理士 西澤 均	最終頁に統く
F1 H01B C03C	G03F H01B	(71) 出願人 000006231 株式会社社 京都所是(72) 発明者 伊波 通 京都府長旧 会社村田(74) 代理人 100092071	
輸別配号 3/00 4/04 8/20	501 7/004 501 3/08 審査請求 未請求 請求項の数5 OL	<b>特顧</b> 2000-21905 (P2000-21905) 平成12年1月31日 (2000. 1.31)	
(51) Int. C1.7 H 0 1 B C 0 3 C	G03F H01B	(22) 出廢番号 (25) 出廢用	

(54) 【発明の名称】感光性ガラスペースト及びそれを用いた多層配線回路板の製造方法

光性ガラスペースト及びそれを用いた多層配線回路板の **精度、寸法精度を有するピアホールが所定の位置に配設** されたガラス層などを確実に形成することが可能な、感 【課題】 焼結収縮や、Agなどの導体成分の拡散、ゲ **ル化などを抑制することが可能で、例えば、所定の形状** 製造方法を提供する。

【解決手段】 欧光性ガラスペースト中の無機成分の主 要部を構成するガラス成分として、低融点ガラス成分と %) し、低融点ガラス成分の割合を少なく(1~30重 量%)する。高融点ガラスとして、Agなどの導体成分 る。 磁光性ガラスペースト中の無機成分の割合を40~ 高融点ガラス成分を組み合わせたものを用いるととも に、高融点ガラス成分の割合を多く(70~99塩量 の拡散を抑制することが可能なホウ珪酸ガラスを用い 70重量%の範囲とする。



育するものであることを特徴とする感光性ガラスペース

0℃以上高い高融点ガラス粉末10~99重量%とを含

(も)前記低融点ガラスよりガラス軟化点 (Ts) が30

ガラス粉末1~30重量%と、

(a)ガラス軟化点 (T s) が400~600℃の低融点

前記ガラス粉末が、

【静求項1】ガラス粉末を含む無機成分と、感光性を有 する有機成分とを含有する感光性ガラスペーストであっ

(特許請求の範囲)

B203-K20系ガラスと、下記組成のSi02-B 2 O 3 − A I 2 O 3 系ガラスの混合物粉末であることを | 欝水項3|| 前記高融点ガラス粉末が、前記SiOz− 特徴とする請求項1又は2記載の感光性ガラスペース 1に記載の感光性ガラスペースト。

領域内にあるガラス粉末であることを特徴とする請求項

組成図において、点A、点B、点C及び点Dで囲まれた

3, 及びK20の重量比組成が、添付の図1に示す3元

Os-K2O系ガラス粉末であって、SiO2, B2O

【請求項2】前記高融点ガラス粉末が、SiOューBュ

: 2.0~ 5.0重量% SiO2 :93.5~97.8陆唐% Al2Os: 0.2~ 1.5 重量% BzO3

であることを特徴とする請求項 1~3のいずれかに記載 の感光性ガラスペースト。

ラスペーストを、導体配線が形成された絶縁基板上に印 【請求項5】請求項1~4のいずれかに記載の感光性ガ

ಜ

焼成することにより、ピアホールを備えた絶縁層を形成 する工程とを具備することを特徴とする多層配線回路板 印刷・乾燥後の感光性ガラスペーストを露光・現像する 前記ピアホールパターンに導電性ペーストを埋め込んで ことにより、ピアホールパターンを形成する工程と、 副・乾燥する工程と、

[発明の詳細な説明] の製造方法。

[0001]

[発明の属する技術分野] 本脳発明は、ガラスペースト **に関し、詳しくは、光に感応する感光性ガラスペースト** 及びそれを用いた多層配線回路板の製造方法に関する。 [0002]

えば、装面に微細配線が施されたガラスエポキン樹脂基 板上に、スルーホールを備えた絶縁層を印刷工法などの 方法により形成したプリント基板などに実装されて用い [従来の技術] 従来より、I Cなどの半導体素子は、

網配線化、高速伝送化、高周波数化、高熱放散化など~ 50 ており、磁光性を有する有機物としては、回鎖に宜能基 భ 【0003】そして、近年、半導体素子の高塩積化、

**你照2001-210141** 

3

の要求が増大するのにともなって、これに対応すること

**十分ではないという問題点がある。また、上述のような** ホールメッキ性、加工性、多層化接着性などが必ずしも [0004] しかし、従来のブリント基板には、スルー が可能なプリント基板への要求が高まっている。

ると考えられている。そこで、機械的強度が大きく、耐 ガラスエポキシ樹脂基板の場合には、高温で熱変形が生 じるというような問題点があり、高密度化には限界があ 熱性の高いアルミナなどのセラミックを基体として用い たセラミック基板が有望視されるに至っている。 2

[0005]ところで、セラミック基板としては、微細 配線を施した基板の装面に、スルーホールを備えた絶縁 層を印刷工法などの方法により形成した構造のものがあ り、このようなプリント基板においては、高密度実装な どに対応するために、彼細なスパーホールを形成するこ とが必要になる場合がある。

【0006】また、近年、電極(コイルバターン)が配 設されたセラミックグリーンシートを積層することによ り形成される積層型のインダクタやキャパシタなどが広 く用いられるようになっており、これらのインダクタや キャパシタなどの受動部品についても、亀子回路の高松 積化に伴ない、小型化への要求が大きくなっている。 ន

**番目のセラミックグリーンシートを積層し、ピアホール** を介して、一層目のコイルパターンと 2 帰目のコイルパ ターンを導通させ、この工程を繰り返すことにより製造 た後、ピアホールに導体を充填し、さらに絶縁層上に2 【0007】例えば、高いインダクタンスを得ることが 可能な、スパイラル型の積層コイルは、コイルパターン が配散されたセラミックグリーンシート (アルミナグリ **ーンシート)上に、ピアホールを備えた絶談層を形成し** 

ホールを形成することが必要になる。そこで、近年、多 層回路部品の高密度や微細化に対応して、従来の印刷工 **法では形成することが容易ではない微小なピアホールを** 形成することが可能な、感光性ガラスペーストを用いて 【0008】そして、このような方法でコイルを製造す る場合、製品の小型化を図ろうとすると、微細なスルー 絶縁層を形成する方法が提案されるに至っている。 されている。

クスを所定の割合で混合した混合物が一般的に用いられ ラスもしくはガラスとセラミックスを配合した無機混合 物と、感光性を有する有機物との混合物であり、無機混 合物としては、ガラスに対して、クォーツ、コージェラ クリーン印刷などの方法により、基板の全面に盈布、乾 燥した後、フォトマスクを介して露光・現像を行い、焼 成を加えて微細なピアホールを形成するものである。 な お、この方法に用いられる感光性ガラスペーストは、ガ スピネル、フォルステライト及びシリカなどのセラミッ イト、アルミナ、ジルコニア、マグネシア、ムライト、 [0009]この方法は、観光性ガラスペーストを、 9

3

間の絶縁性が低下するという問題点がある。 る工程で、ガラス中へのAgの拡散量が大きくなり、層 径より著しく大きくなってしまうという問題点がある。 め、粘性流動が低い温度から始まり、焼結収縮率が大き の比較的低い一種類のガラス成分のみを用いているた 感光性ガラスペーストにおいては、通常、ガラス軟化点 また、回路を構成するAgなどの導体配線上で焼成され くなって、形成されるピアホールの直径が、現像後の直 【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来の 5

導体配線に変形が生じないような最適焼成温度範囲内で するという問題点がある。 熱処理した場合に、焼結が不十分になり、絶縁性が低下 分を、高融点ガラスだけにすると、AgやCuからなる 【0011】逆に、感光性ガラスペースト中のガラス成

分子鰕が架橋し、ペースト粘度が異常上昇しゲル化する が、ガラス成分中の多価金属と反応することにより、高 A g などの導体の拡散が発生し、層間絶縁性が低下する また、低融点ガラスが低い温度から粘性流動するため、 収縮によるピアホールの変形を抑制することができず、 感光性ガラスペーストを多層配線回路板に用いた場合 の含有率が多い (40~97重量%) ため、このような プラズマディスプレイ用の感光性ガラスペーストとし というような問題点もある。 という問題点がある。また、感光性有機成分の官能基 ガラスペーストが提案されているが、低融点のガラス量 て、低融点のガラス中に高融点のガラスを加える感光性 【0012】また、特開平10-120432号には、 ಜ

多層配線回路板の製造方法を提供することを目的とす とが可能な、感光性ガラスペースト、及びそれを用いた 定の位置に配設されたガラス層などを確実に形成するこ ば、所定の形状精度、寸法精度を有するピアホールが所 成分の拡散、ゲル化などを抑制することが可能で、例え 【0013】本願発明は、焼結収縮や、Agなどの導体

8

高融点ガラス粉末70~99重量%とを含有するもので 点ガラスよりガラス軟化点(Ts)が300℃以上高い ℃の低融点ガラス粉末1~30重量%と、(b)前記低層 とを含有する感光性ガラスペーストであって、前記ガラ ガラス粉末を含む無機成分と、感光性を有する有機成分 あることを特徴としている。 ス粉末が、(a)ガラス軟化点(Ts)が400~600 に、本願発明(請求項1)の感光性ガラスペーストは、 【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため

成分の主要部を構成するガラス成分として、高融点ガラ 【0015】本顧発明の感光性ガラスペーストは、無機 5

スを主成分とし、低融点ガラスの割合を少量に抑えた結

Agなどの導体成分の拡散、ゲル化などを抑制すること 成のガラスを用いるようにしているのか、焼結収縮や、

層を確実に形成したりすることができるようになる。 結収縮や、Agなどの導体成分の拡散を抑制することが より、例えば、所望の寸法のピアホールを備えたガラス 可能になり、この感光性ガラスペーストを用いることに ~99重量%とを含有するものを用いることにより、焼 化点(Ts)が300℃以上高い高融点ガラス粉末70 軟化点(Ts)が400~600℃の低融点ガラス粉末 1 ~ 3 0 重貴%と、(b)前記低融点ガラスよりガラス軟 【0016】すなわち、ガラス粉末として、(a)ガラス

合からみると、高融点ガラスの割合を70~99度量% 散のため絶縁層に不良 (絶縁性の低下) が発生し、ガラ 層間絶縁不良が生じてしまうことによる。 のガラス中への拡散が進んで絶縁不良を発生させたり 発生させてしまうことによる。また、高融点ガラスの割 いられる金属のガラス中への拡散が進んで、絶縁不良を 粉末の割合が1重量%未満になると、焼結が進まず、絶 が進まなくなるためであり、また、低融点ガラス粉末の 低融点ガラス粉末を  $1 \sim 3$  0 重量%の割合で用いている し、また、高融点ガラスの割合が99重量%を超える しすぎてパターン形状がくずれたり、配線に用いる金属 なると、焼成温度でのガラスペースト全体の粘度が低下 の範囲としたのは、髙融点ガラスの割合が70%未満に 焼成後のパターン形状がヘずれてしまったり、配線に用 じ、低融点ガラス粉末の割合が30重量%を超えると、 縁層内に気孔が残って、多層回路の層間絶縁不良が生 割合を1~30重量%の範囲としたのは、低融点ガラス ス軟化点が600℃を上回ると、ガラスペーストの焼結 ス軟化点が400℃を下回ると、配線に用いる金属の拡 400~600℃のものを用いるようにしたのは、ガラ が、低融点ガラス粉末として、ガラス軟化点(Ts)が おいては、ガラス軟化点(Ts)が400~600℃の 【0017】なお、本願発明の感光性ガラスペーストに 、焼結が進まず、絶縁層内に気孔が残り、多層回路の

~30℃高くしても、低融点ガラスが十分に流動せず と、焼成温度を高融点ガラスのガラス軟化点よりも20 度は、焼成時においてもそれほど低下せず、パターン形 点ガラス粉末を用いた場合において、高融点ガラスのガ 点ガラスのガラス軟化点の遊が300℃より小さくなる 状にくずれが生じることを防止することが可能になる。 成を行うことが可能になるとともに、高融点ガラスの粘 して流動し、焼結が促進されるため、容易かつ確実に焼 焼成することにより、低融点ガラスの粘度が十分に低下 ラス軟化点(T s)よりも20~30℃程度高い温度で ラスよりガラス軟化点(Ts)が300℃以上高い高層 【0018】また、本願発明の要件を満たす、低融点力 【0019】なお、低融点ガラスのガラス軟化点と高層

> 焼結が進まなくなり、また、低融点ガラスが十分に流動 が低下し、ガラスペースト膜全体の流動が生じて、パタ するように焼成温度を高くすると、高融点ガラスの粘度 ーン形状にくずれが発生するというような不具合が生じ

とが望ましが、さらには、ガラス軟化点が450~55 0℃の範囲のものを用いることが望ましい。 【0020】なお、低融点ガラスとしては、上述のよう ガラス軟化点が400~600℃のものを用いるこ

あるガラス粉末であることを特徴としている。 K 2 Oの重量比組成が、添付の図1に示す3元組成図に おいて、点A、点B、点C及び点Dで囲まれた領域内に は、前記高融点ガラス粉末が、SiOzーBzOsーK 20系ガラス粉末であって、SiO2,B2O3,及び 【0021】また、請求項2の感光性ガラスペースト

状精度で、微細なアアホールなどを容易に形成すること る感光性ガラスペーストの経時的な粘度変化を抑制し る感光性有機バインダとの反応性の高い成分(特にホウ ピヒクル、特にカルボキシル基などの酸性官能基を有す の反応性の低いSiO₂の割合が多く、相対的に、有機 た領域内にあるものを用いた場合、有機パインダなどと C (85, 5, 10), D (85, 15, 0)で囲まれ の点A (65, 35, 0), B (65, 25, 10), SiO<sub>2</sub>, B<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, 及びK<sub>2</sub>Oの重量比組成が、図1 〇ョーK2〇系(ホウ珪酸系)のガラス粉末であって、 とともに、フォトリングラフイ技術に基心いて、高い形 て、種々の手法で安定した成膜を行うことが可能になる 繋) の割合が少なくなるため、イオン架橋反応などによ 【0022】 高融点ガラス粉末として、SiO<sub>2</sub> – B<sub>2</sub>

以上(log I R ≥ 9)と高く、優れた特性を有してい と低く、湿中負荷試験における絶縁信頼性も1×10° て形成された絶縁体層は、特に、比誘電率 ε τ が 5 以下 主たる成分とするとガラスペースト (絶縁材料) によっ 【0023】また、このような組成のホウ珪酸ガラスを

れた厚膜多層配線回路板を得ることが可能になる。 がって、基板の反り量を小さくすることが可能になり、 多層化した場合にも基板の変形量が少なく、信頼性に優 に応じた所留の熱膨張係数を、例えば、1.5~9 ppm 適宜変更することによって、基板材料や導体材料の種類 た領域内で、SiO2、B2O3及びK20の組成比を 【0024】さらに、図1の点A、B,C,Dで囲まれ /℃の範囲で精度よく制御することが可能になる。した

板における絶縁体層としては極めて不利になる。さら 試験における絶縁抵抗が低くなり、絶縁信頼性が低下す に、図1における領域2では、絶縁層を形成するための 率 ε r が高くなり、特に高周波用途の厚膜多層配線回路 る傾向がある。また、図1における領域Yでは、比誘館 【0025】なお、図1における領域Xでは、極中負荷

特開2001-210141

£

O系ガラスの組成は、さらには、図1の点E (75, 2 0, 5) 及び点D (85, 15, 0) で囲まれる範囲が 5, 0)、点F(75, 20, 5)、点G(85, 1 さい低融点金属との同時焼成が難しくなり、生産性の低 下を招くことになる。また、SiOz-BzOz-Kz 焼結温度が高くなってしまい、銀、鯛などの比抵抗の小

ている。 Al2O3系ガラスの混合物粉末であることを特徴とし ーK<sub>2</sub>O系ガラスと、下記組成のSiO<sub>2</sub>ーB<sub>2</sub>O<sub>3</sub>ー は、前記高融点ガラス粉末が、前記SiOz-B2Os 【0026】また、請求項3の感光性ガラスペースト

B<sub>2</sub>O<sub>3</sub> : 2.0~ 5.0重量% SiO2 : 93.5~97.8重量%

Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>: 0.2~ 1.5抵量%

3 系ガラス(高珪酸ガラス)との混合物を用いることに 1.5**重量**%の組成の、SiO2-B2O3-A12O は、上記のホウ珪酸ガラスと高珪酸ガラスの割合を調整 ン形状の変化を少なくすることが可能になる。さらに と、SIO2 : 93.5~97.8重量%、B B, C, Dで囲まれる領域内の組成比のホウ珪酸ガラス より、ペーストの焼成収縮を抑制し、焼成によるパター 20a:2.0~5.0重量%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>:0.2~ 【0027】高融点ガラス粉末として、図1の点A,

係数にあわせ、反りの少ない多層回路基板を製造するこ 【0028】また、上記高珪酸ガラスは、ガラス軟化点

することにより、絶縁体層の熱膨張係数を基板の熱膨張

は、前記ホウ珪酸ガラス粉末との濡れ性が良好であるこ 珪酸ガラスの屈折率に近いため、光の散乱を抑制して、 の機能を果たすとともに、屈折率が有機パインダやホウ 成温度では軟化セず、焼成収縮を抑えるフイラーとして ことが可能になる。 とから、焼結性を向上させて、緻密な焼結体を形成する ものを得ることが可能である。また、高珪酸ガラス粉末 も安定していることから、低コストで、安定した品質の す。さらに、高珪酸ガラス粉末はその製造が容易で価格 感光性ガラスペーストの硬化率を向上させる機能を果た (Ts) が高く、製品である感光性ガラスペーストの焼

の範囲より増やすと、ガラスの形成が困難になり、コス ることになるため好ましくない。また、SiOzを上記 乱が多くなって感光性ガラスペーストの硬化率が低下す 料との間で屈折率の差が生じ、その部分における光の散 が低下したり、屈折率が高くなったりするので、他の材 トが高くなってしまうため好ましくない。 ⅰ○2が上記の範囲より少ない領域では、ガラス軟化点 【0029】なお、上記の高珪酸ガラスにおいても、S

とを特徴としている。 は、前記無機成分の含有量が40~70重量%であるこ 【0030】また、請求項4の感光性ガラスペースト

క్ర

**称聖2001-210141** 

2

9

焼成収縮が大きくなって均一な膜形成が困難になるとと 0 重量%を超えると、露光時、ペースト膜内での光散乱 は、上記無機成分は40~70塩量%であることが望ま もに、空孔が増えて絶縁信頼性が低下し、無機成分が7 【0031】本顧発明の感光性ガラスペーストにおいて しいが、これは、無機成分が40重量%未満になると、 や吸収が多くなって膜内に充分な光が透過しなくなり、 模硬化率が低下する場合があることによる。

路板の製造方法は、請求項1~4のいずれかに記載の感 **ールを備えた絶録層を形成する工程とを具備することを** 【0032】また、本願発明(請水項5)の多配配線回 光性ガラスペーストを、導体配線が形成された絶縁基板 上に印刷・乾燥する工程と、印刷・乾燥後の感光性ガラ スペーストを観光・現像することにより、ピアホールパ ターンを形成する工程と、前記ピアホールパターンに導 **電性ペーストを埋め込んで焼成することにより、ピアホ** 年徴としている。

Wなどの金属を導体成分とする種々のものを用いること

が可能であり、その種類に特に制約はない。

**収分として、高融点ガラスを主成分とし、低融点ガラス** 【0033】本願発明(訥水項1~訥水項4)の感光性 ガラスペーストは、無機成分の主要部を構成するガラス の割合を少量に抑えた組成のガラスを用いるようにして いるので、この磁光性ガラスペーストを用いることによ て、俗頼性に優れた厚膜多層回路基板を効率よく製造す り、焼結収縮や、Agなどの導体成分の拡散を抑制し ることが可能になる。

形成する。

[0034]

[0035] [磁光性ガラスペーストの作製] まず、ガ ラス軟化点 (Ts) が400~600℃の低融点ガラス を、眩低融点ガラスのガラス軟化点より300℃以上商 ミックス粒子や結晶質粒子の混合物に対して、無機成分 【0036】セラミック粒子としては、BaTiOsな どの誘想体セラミックや、フェライトなどの磁性体セラ セラミック粒子の添加量は無機成分全体量の10~25 いガラス軟化点(Ts)を有する高融点ガラスと、セラ 全体量の1~30重量%となるような割合で添加する。 ミックなど種々のものを広く用いることが可能である。 また、結晶質粒子はクォーツなどが例示される。なお、 [発明の実施の形態] 以下、発明の実施の形態を示し て、本願発明の特徴とするところを詳しく説明する。 **重3%程度の割合で添加することが望ましい。** 

%になるような割合とする。この実施形骸では、感光性 有機成分を所定の割合で配合し、混合する。なお、感光 性有機成分の割合は、無機成分の比率が40~70宜量 を混合物したものでもよい。また、高融点ガラス、低融 点ガラス、セラミックス粒子、結晶質粒子などの各粉体 [0038] それから、この無機成分に対した、感光性 いずれも一種類のガラスでもよく、また、数種のガラス [0037]また、南融点ガラス及び低融点ガラスは、 の粒径は平均粒径で1~4μmの範囲のものを用いる。

成分の比率(含有率)は40~70重量%となるが、5 の共重合体、モノマー、光開始剤、及び溶剤の混合物を 用いた。そして、この無機成分と感光性有機成分の混合 物を、3本ロールミルで十分に分散させ、感光性ガラス ペーストを作製する。この腐光性ガラスペーストの無機 0~55重量%の範囲とすることがさらに窒ましい。

[0039] [多層配線回路板の作製] まず、多層配線 回路板用のアルミナ基板を用意し、このアルミナ基板上 に、所定のパターンのクリーン版を用いて、導電性ペー り、アルミナ基板の表面に導体配線を施す。導電性ペー ストとしては、Au, Pt, Ag, Cu, Ni, Pd, ストをスクリーン印刷し、乾燥・焼成を行うことによ

2

【0040】それから、導体配線が施されたアルミナ基 板上に上記のようにして作製した感光性ガラスペースト をスクリーン印刷やスピンコーティングなどの方法で全 面印刷し、乾燥する。次いで、導体配線の一部が鰭出す るようなピアホールのパターンが施されたフォトマスク を介して露光し、現像する。そして、焼成を行い、 導体 配線が施されたアルミナ基板上の所定の位置に、所定寸 法、所定形状のピアホールが配散された絶縁層(膜)を

20

に、絶縁層上に導体配線パターンが形成され、1層目と 2層目の回路が直列に接続される。これを上述の条件で 【0041】そして、形成された絶縁層の上に導電性ペ ーストを所望のパターンでスクリーン印刷するとととも に、ピアホールに導電性ペーストを充填する。これによ り、ピアホールに導電性ペーストが充填されるととも 乾燥し焼成する。以後、上記工程を繰り返すことによ り、所定の積層数の多層配線回路板が作製される。

0042

[実施例] 以下、実施例を示して、本顧発明をさらに具 本的に説明する。

4の組成のホウ珪酸ガラスを用意するとともに、高融点 [感光性ガラスペーストの作製] 表 1 に示すように、低 ガラスとして、低融点ガラスのガラス軟化点480℃よ (第1の高融点ガラス (SiOz:BzOs:KzO= 203:SiO2=73.9:22.2:3.2:1. り、ガラス軟化点が300℃以上高い2種類のガラス 7 9:1 9:2)、及び第2の高融点ガラス(S i 融点ガラスとして、BiaOs:BaOs:Al

4)) を用意するとともに、比較のため、低融点ガラス より軟化温度が216℃だけ高いガラス(比較用高融点 ガラス (SiO2: Al2O3: CaO: MgO: Na aO:KaO=73.5:1.0:5.4:3.7:1 O2:B2O3:Al2O3=96:2.5:1.

တ္ထ

有機成分として、メタクリル酸メチルとメタクリル酸と

	ガラス軟化	780℃	1500C	480C		
	成分	ホウ柱圏ガラス: 第1の高階点ガラス (S1O <sub>3</sub> : B <sub>3</sub> O <sub>3</sub> : K <sub>5</sub> O=78:19:2)	ホウ珪酸ガラス: 第2の高階点ガラス (S1O <sub>3</sub> : B <sub>2</sub> O <sub>3</sub> : A1 <sub>2</sub> O <sub>3</sub> =96: 2,5:1.4)	コーニングの080:比較用英層点ガラス (SIO <sub>2</sub> :A1 <sub>2</sub> O <sub>3</sub> :CaO:MgO:Na <sub>3</sub> O:K <sub>2</sub> O=73.5:L:0:5.4:8.7:17.2)	ホウ珪酸ガラス:低酸点ガラス (Bi <sub>2</sub> O <sub>3</sub> :B <sub>2</sub> O <sub>3</sub> :Ai <sub>2</sub> O <sub>3</sub> :SiO <sub>2</sub> =73.8:23.8:3.2:L.4)	\$ 1 t t
•				<b>化</b>		

\* 部合物を顕製した。 の割合で添加し、さらにクォーツを添加して無機成分の\* [0044] 各ガラス材料のガラス軟化点を要1に併せ て示す。そして、これらの高融点ガラス及び/又は比較 用商融点ガラスに、低融点ガラスを0.6~35重量%

[0045] [表2]

高融点ガラス: 低酸点 ガラスの重 ガラスの重 量比	99.4:0.6	98.8:1.2	97.0:3.0	97.0:3.0	97.0:3.0	97.0:3.0	82.1:17.9	70.0:30.0	58.3:41.7	0:100
77-78 (EE90	16	16	16	16	16	91	91	16	16	20
低融点ガラ ス量 (重量%)	9.0	1.0	2.6	2.5	2.6	9.2	15.0	19.1	35.0	08
第2の高融 比較用高融 佐融点ガラ 点ガラス監 点ガラス監 ス監 (監量SG) (監量SG) (医量SG)	1	-	1	64.0	1	81.5	1	ı	ı	1
第2の高限 点ガラス製 (機能が)	17.9	17.8	17.5	17.5	-	1	14.8	12.6	10.6	0
第1の組織 点ガラス量 (戦権%)	65.6	65.2	64.0		81.6	•	54.2	46.2	38.5	•
は 幸	¥ ¥	m	ပ	*	ы	<b>*</b>	U	E	<b>:</b>	*

1, 1は、本願発明の範囲外の組成の比較例のサンプル 【0046】なお、第1の高融点ガラス、第2の高融点 ーッとしては、それそれ平均粒径が4 μm, 3 μm, 3 μ ガラス、比較用商融点ガラス、低融点ガラス、及びクオ m, 1μm, 及び2μmのものを用いた。なお、要2にお いて、サンブル名に\*印を付したサンブルA, D, F,

【0047】それから、各原材料を下配の割合で配合す (a)メタクリル酸メチルとメタクリル酸の共宜合体:7 ることにより、感光性ガラスペーストを調製した。

(b)モノマー (EO変性トリメチロールプロパントリア

クリレート): 14塩量部(28塩量%)、

(c)開始剤 (2-メチル-1-[4-(メチルチオ)フェニル]-2-(d)溶剤 (エチルカルピトールアセテート) :27**位表** モルフォリノプロパンノン-1):2 監責節(4 抵量%)

[0048] そして、数3に示すように、数2の無機成 分(絶縁粉末)50重量部と、上記感光性有機成分50 重量部とを配合し、これを3本ロールミルで十分に混合 して感光性ガラスペーストを得た。 **部 (54 瓶量%)** 49

[0049]

3 特開2001-210141

=

**	有機成分 男	絶職粉末 妾			
答剤(エチルカルビトールアセテート) : 27重量部	開始剤(2-メチル-1-[4-(メチルチオ)フェニル] -2-モルフォリノプロパンノン-1) : 2重豊部	モノマー(EO変性トリメチロールプロバントリアクリレート) :14意景部	メタクリル酸メチルとメタクリル酸の共宜合体 : 7重量部	妻 2 の組成の無機成分	成 分
	Ę	5		05	重量部

を、アルミナ基板上にスクリーン印刷し、乾燥した後、 セルロース)2重量部とを混練してなる導電性ペースト 魚便部と、有機プトクラ(エチフングリコール+エチラ 導体成分であるAg粉末を78重量部と、ガラス粉末2 を形成する。導体配線(ここではコイルパターン)は、 法について説明する。まず、アルミナ基板上に導体配線 性ガラスペーストを用いて多層配線回路板を製造する方 800℃、空気中で焼成することにより形成する。 【0050】 [多層配線回路板の作製] 次に、上記感光 20

に、スクリーン印刷法により、感光性ガラスペーストを 全面強布した後、乾燥する。 【0052】その後、導体配線の一部が露出するような 【0051】次に、導体配線を施したアルミナ基板上

り、1層目の絶縁層を形成する。それから、この1層目 を形成し、続いて、空気中800℃で焼成することによ 像することにより、1層目の絶縁層の一部にピアホール 外光で露光し、光が照射された部分を硬化させることに より、絶縁層(ガラス層)を形成する。 ピアホールのパターンを有する フォトマスクを介して架 【0053】次に0.6重量%Na2COa水溶液で現 8

> ともに、一層目の絶縁層上に導体配線パターンが形成さ 摘ねたたスクリーン版を用いたスクリーン円廻する。 い の絶縁層の上に、上記導体配線の形成に用いた導電性へ れ、1層目と2層目の回路が直列に接続される。これを れにより、ピアホールに導電性ペーストが充填されると ーストと同じ同じ導電性ペーストを、所望のパターンが

を経て、2層目の絶縁層を形成する。以下、上記工程を る。そして、1層目と同様に、露光・現像・焼成の工程 光性ガラスペーストをスクリーン印刷により全面塗布す 繰り返すことにより、所望の積層数の多層配線回路板を

用いて製造した、ピアホールを有する多層配線回路板の 散量、焼結性についての評価結果を表4に示す。 ピアホールの現像・焼結後の直径、導体であるAgの拡 【0055】[解価]上記の各感光性ガラスペーストを [0056]

【0054】それから、さらに2層目の絶縁層用に、感 上述の条件で乾燥し、焼成する。

> 2層目の導体配線形成時に配線間のショート不良が生じ Jの場合と同様に、被覆されるべき導体配線が露出し、 進み、バターン形状にへずれが生じた。また、サンプル ンプルロ、Fは、焼結はしているがピアホールの拡大が s) の差が300℃に満たない高融点ガラスを用いたサ 【0062】また、低融点ガラスとのガラス軟化点(T

O<sub>2</sub>=96:2.5:1.4)を添加していない。その ような効果が発生し、ピアホール径の拡大が抑制される て、ガラスの粘性流動を抑制する、いわゆるピン止めの ンプルCでは、第2の高融点ガラスのような、高いガラ ピアホール径がいくらか大きくなっている。これは、サ 結果、サンプラロらは、サンプラロに比較して発成後の は、第2の高融点ガラス(B<sub>2</sub>O<sub>3</sub>:Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>:Si 【0063】また、サンプルCとEでは低酸点ガラスの ス軟化点を有するガラスが溶融せずにガラス中に存在し 添加量は2.5重量%と同一であるが、サンプルDに

ており、Agが多量に拡散し、絶縁層の絶縁性が低下し **範囲外のサンプラ1においては、明るい部分が多へな** 分ほどAgの微度が高いことを示しており、本願発明の プ図である。図2(a), (b)のマップ図では、明るい館 (a)はサンプルCのマップ図、(b)はサンプルIのマッ ed X-ray spectrometer) のマップ図を示す。なお、 けるAg拡散の状態を示すWDX (wavelength-dispers 内のサンプルCと、本願発明の範囲外のサンプル1にお 【0064】なお、図2(a), (b)に、本願発明の範囲 A B 技数 〇:技数量少

指有 〇:良好

が発生することが確認された。 の焼結性が悪く、収縮はほとんどなかったが、絶縁不良 5 重量%と少ないサンプルAは、感光性ガラスペースト 【0057】表4に示すように、低融点ガラス量が0.

れほど大きくならないことが確認された。 を用いたサンプルD、Fを除いては、ピアホール径もそ 軟化点(Ts)の差が300℃に満たない高融点ガラス については、いずれも焼結し、低融点ガラスとのガラス %のサンプルB, C, D, E, F, G, Hの各サンプル 【0058】また、低融点ガラス添加量が1~30重量

が少ないことによるものと考えられる。 る。これは、用いている高融点ガラスへの、Agの拡散 ては、ガラスへのAg導体の拡散が少ないことがわか %の、B, C, D, E, F, G, Hの各サンプルについ 【0060】しかし、本願発明の麁囲外のサンプラⅠ 【0059】また、低融点ガラス添加量が1~30宜量

い)の畳が多くなりすぎたことによるものと考えられ 融点ガラスへの低融点ガラス(Agの拡散が生じやす した。これは、主として、Agが拡散しにくい第1の高 が増大して絶縁層の抵抗が低下し、層間絶縁不良が発生 径の拡大が進むばかりでなく、 A g の絶縁層内への拡散 (低融点ガラス添加量:35重量%) では、ピアホール

線形成時に配線間のショート不良が生じた。 て、被覆されるべき導体配線が露出し、2層目の導体配 拡大が進むとともに、ピアホールの形状もかなりくずれ 孫払していないサンプラ」では、からにアアホーラ館の 【0061】また、低融点ガラスのみで高融点ガラスを

特開2001-210141

8

現像後ピアホール径 焼成後ピアボール協 Ag供数

女母女 **\*** 32 4 11 4 31 µ n φ 27 µ m φ 30 µ m ф 27 µ m φ 37 µ m ф 34 µ n φ 32 µ m φ 33 / n o 30 µ m ø 127µmф 90 µ m ф φ**ω**π88 φ**u**π88 φ**π**μ88 φ**u**π 93 87 mm ф 52 µ n φ 48 12 m ф 35 11 no 0 × Þ O Þ O Þ O 0 焼結性 0 0 0 0 0 0 0 0 D ×

△:10μm程度拡散距離

×:30μm以上の拱板阻備

×:絶算不良発生 △:やや良好,絶縁不良なし

ことによるものと考えられる。

6

[00066]

散、ゲル化などを抑制することが可能になる。したがっ [発明の効果] 上述のように、本願発明 (請求項1) の り、例えば、所望の寸法のピアホールを備えたガラス層 感光性ガラスペーストは、無機成分の主要部を構成する ガラス成分として、低融点ガラス成分と高融点ガラス成 分を組み合わせたものを用いるとともに、高融点ガラス 成分の割合を多くし、低融点ガラス成分の割合を少なく て、本願発明の感光性ガラスペーストを用いることによ しているので、焼結収縮や、Agなどの導体成分の拡

2

【0067】また、請求項2の感光性ガラスペーストの とが可能になる。したがって、本願発明の磁光性ガラス ペーストを用いることにより、さらに伝送ロスの少ない 【0068】また、欝水項3で用いられているような所 定の組成の高融点ガラスを用いることにより、ガラスの ように、高融点ガラスとして、ABなどの導体成分の拡 により、配線に用いている金属(導体成分)のガラス中 への拡散を低減して、ガラス層の導電性を低く抑えるこ 散を抑制することが可能なホウ珪酸ガラスを用いること 多層電子部品や回路などを形成することが可能になる。

を備えた絶縁層を形成するような場合にも、ピアホール の拡大をさらに効率よく抑制して、所望のパターンのガ 格性流動を抑制する効果が増大し、例えば、ピアホール ラス層を形成することが可能になる。

【0069】また、請求項4のように、無機成分の割合 を40~70重量%の範囲とすることにより、焼成収締 が少なく、かつ、焼成時に空孔が形成されにくくて絶縁 育類性に優れ、しかも、膜硬化性の良好な感光性ガラス ペーストを得ることが可能になり、本願発明をさらに実 効あらしめることができる。 【0070】また、本願発明(請求項5)の多層配線回 路板の製造方法は、ビアホールを備えた絶縁層を形成す るのに、本願発明の感光性ガラスペーストを用いるよう にしているので、焼結収縮や、Agなどの導体成分の拡 散を抑制して、信頼性に優れた厚膜多層配線回路板を効 **率よく製造することが可能になる。** 

を確実に形成したりすることができるようになる。

【図面の簡単な説明】 [0071]

【図1】本願発明のホウ珪酸ガラス組成範囲を示す三元 組成図である。 8

【図2】Ag拡散の状態を示すWDX (wavelength-dis persed X-ray spectrometer) のマップ図であり、(a) は本願発明の実施形態にかかるサンプルCのマップ図、 (も)は比較倒であるサンプル1のマップ図である。

[図2]

[図]

Œ

2

K=0( | | | | | | |

9

8

SiOr(MMX)

レロントページの統や

酸別記号 H05K 3/46 (51) Int. Cl. 7

H 0 5 K ഥ

3/46

Fターム(参考) 2H025 AA00 AB15 AC01 AD01 BC32

CC08 FA03 FA17 FA29 FA39 BC42 CA00 CB13 CB14 CC03

4G062 AA09 BB01 BB05 NN01 NN17 NN32 PP09 PP13 PP15

5E346 AA05 AA12 AA15 AA26 AA32 AA43 BB01 CC18 CC31 DD03 DD34 EE23 EE39 FF01 FF18 GG06 GG07 GG09 HH08 HH11 5G303 AA07 AB01 AB20 BA07 CA02 CA09 CB01 CB02 CB14 CB30

<u>(10</u>

ア・フェト (物札) z

•

•